

第2回 大船渡市災害復興計画策定委員会 議事要旨

日 時：平成23年6月2日（木）13：30～

場 所：大船渡アーバン

次第	発言者		
2 あいさつ	市長	(あいさつ、経緯の説明、協力をお願い)	
	塩崎委員長	(あいさつ)	
(資料確認)	災害復興局長	(資料確認)	
3 報告(1)	災害復興局技監	(説明/資料1)	
	家田委員	4ページ 盛町では、浸水はしているが色がついていないものは何か。	
	災害復興局技監	家屋等の人が住んでいたもので罹災証明が発行されたもの以外の建物。工場などは着色していない。	
	塩崎委員長	被害程度の現場を確認したものという理解でよいか。	
	災害復興局技監	よい。	
	佐藤(隆)委員	集落単位のデータをまとめてほしい。 もともとの戸数の何割が被災しているか、というところもみたい。 建物の用途別もデータとして押さえておくべき。	
	塩崎委員長	建物のコンクリートなどの構造なども知りたい。極力ということで。 今後、また必要なデータがあれば、意見をいただきたい。	
	3 報告(2)	災害復興局技監	(説明/資料2)
		熊谷委員	防波堤が無い場合のデータは、地盤沈下も含んだ考え方が。
		災害復興局技監	このデータでは見込まれていない。
塩崎委員長		湾口防波堤がどういう役割を果たしたかという点で、1波でなくなり、2波目ではなかった場合など、最大波高発生時の考慮はされているか。	
災害復興局技監		確認できていない。	
氏家委員		津波時に湾口防波堤見ていたが、第1波では壊れていないと感じた。 大船渡湾内にたくさんの防潮堤があるが、その効果がわかれば教えていただきたい。	
災害復興局技監		必要であれば国交省に確認する必要あり。	
大津委員		湾口防波堤は、海底何メートル、海上何メートルにあったか。老朽化していたのでは。	
	村上委員	水深は30mくらい、湾口に石を積んで、その上にケーソンを乗せている。高さは水深から5m、チリ地震の津波の高さ4m程度を抑えるということで、防潮堤と合わせて	

		<p>二重で守ろうという計画だった。</p> <p>防潮堤の効果については、時間的にはあったと思うが、シミュレーション結果はまだ出ていない。釜石であれば、6分くらい到達を遅れさせたという結果も出ている。老朽化については、沈下もあった。本来であれば今年度から改良に着手する予定だった。</p>
	家田委員	<p>様々な審議会、分科会、部会の委員でもあるので、その時に説明されることは、湾口防波堤は、時間をかせぐ、波高を低くできる、流速を遅くする、という効果があるだろう、とのこと。</p> <p>通常時の台風・高潮などに対しては、どのような効果があるのか。</p>
	村上委員	<p>港内の静穏度を上げるという効果を期待。養殖、船舶の航行の安全に効果があるだろう。</p>
	塩崎委員長	<p>八戸港では防波堤がやられて岸壁に寄れず、港湾が弱体化しているという話もある。</p> <p>また、技術的な報告の他に、地点々々で見ていた市民の声も拾い上げることも重要と考える。</p>
	菅野委員	<p>防波堤の議論より、もっと喫緊の課題があるのでは。</p>
	塩崎委員長	<p>大船渡の今後いろんなことをやっていくなかでも重要な問題であろうと思う。</p>
3 報告 (3) ~ (5)	災害復興局	<p>(説明 / 資料3・資料4・資料5)</p>
	塩崎委員長	<p>専門部会について、結論は特になかったか。</p>
	災害復興局	<p>結論を求めず、広く意見を求めたもの。</p>
	塩崎委員長	<p>今後の進め方は。</p>
	災害復興局	<p>骨子案が定まったあと、事業を検討する段階で意見をもらい、本委員会で報告する。専門部会は、今後2～3回開催の予定。</p>
	塩崎委員長	<p>委員の皆さんからの提言の取り扱いはどうするか。委員がよく読んで、次の会で発言するとか。</p>
	災害復興局	<p>既に数名の個別の委員の方々にヒアリングしているが、全員済んでいないので、作業を重ねていく。また、これに対する各委員の反応としての意見も伺い、反映させていきたい。</p>
	斎藤（功）委員	<p>専門部会について、それぞれの分野に従事していた方としていない方の割合は。</p>
	災害復興局	<p>それぞれの分野に属する関係団体から推薦された方々が8割、残りは市民公募で各部会に4名ずつ配置。</p>
	斎藤（功）委員	<p>市民意向調査の最終結果については、専門部会の方と意向調査がどう結びつのか。高台移転のこと以外に別途出てくるのか。</p>
	災害復興局長	<p>市民意向調査は、高台移転だけに限る調査ではない。市内全域で、住宅の被害状況、暮らしの不安、住宅の再建予定なども聞いている。復興計画を策定する上での1つの参考としてデータはとれたと考える。今後も住民意向の把握に努める。</p>

	齋藤（功）委員	水産、商業等、分野別での意向も必要では。
	災害復興局長	資料12ページに、職業別のデータも整理している。特に水産業の方についての意向を掘り下げている。
	鈴木委員	(市長へ)高台移転のためには土地の造成が必要だが、具体的にはどういう構想をお持ちか。
	市長	7月末を目処に復興計画を策定するが、骨子は政策のリスト、復興計画は実際のプロジェクトのメニュー、そこまで作り上げた上で、各地区に入って住民の方々と具体的な話をする中で浮かび上がると思う。一番難しいのは、様々な職種の方が多い大船渡町。 ヘリコプターで見て回ると、いくつか造成できそうなところがありそう。 地域の方々と話をする段階で、納得がいくように実施していきたい。
	鈴木委員	立根の運動総合公園用地を住宅地として造成する考えは。
	市長	大船渡町の浸水域の使い方として、公園、運動公園などが考えられるので、それもイメージしている。
	菅野委員	大船渡町について、中心街は高潮で冠水している。あそこで商売したいという人は埋めてくれるとか、まとめて移転するとかいろいろ話が出ている。行政が方向を出していただければ、沈下した地域についてどうする考えか。
	市長	全部埋めてしまうと、膨大な土量が必要、そういうこともあり、悩ましい。今回は提示できていないが、今後は地区ごとに具体のタキ台を持って協議していきたい。 これまでにいただいたアイデアとして、国道45号線を嵩上げて、避難できるようにする。JRも嵩上げて、その山側に商業施設を持っていく。ただし、JRの海側はどうするかといった問題が発生し、難しいところもある。
	菅野委員	車で避難しようとして山手に上がる道路が渋滞し飲み込まれた、という方も多い。高台へ逃げる道路が多くあると海の近くで働く人も逃げられるが、JR、国道45号嵩上げだと、それらの道路が限定される。高台に抜ける道路をたくさん造るべき。
	市長	そのとおりだと思う。避難ビルというアイデアもある。 今回は骨子までであるが、委員の提言もあわせ、今後は復興計画や地区ごとのプロジェクトに反映させていきたい。
	長坂委員	高齢化といった中で、特養等の福祉の施設に入居するといった、居住形態の意向も把握してほしい。 公の建物、人が多く集まる場所については、避難のしやすさなど、リスクに応じた土地利用の規制や計画をしていく、といった考え方について、ワークショップや部会でどこまでどれくらいの危険性を受容できるのか、そのためには避難ビルや道路の4車線区間を造るなど、そういった意見を聞くことが重要だと考える。
	塩崎委員長	今後意向調査、専門部会等でこれらを扱っていく予定があるか。
	災害復興局長	意向調査は、概要までであり、必要なデータを十分得られたとは思っていない。今後市民ワークショップなどで意向を吸い上げていきたい。

	大津委員	<p>気仙医師会は、陸前高田市、住田町と一緒にっており、両市町と一緒にした計画を作ることを提言したい。</p> <p>陸前高田市は病院が一つもなくなり、気仙郡の単位の考え方がないと、医療関係は十分ではない。</p> <p>内陸から来る医療関係者からは、釜石、宮古も含め、交通の便が悪すぎることを指摘される。JR大船渡線も時間がかかりすぎる。なぜ肋骨の道路や鉄道ができないのか。</p> <p>通信網についても、4～5日安否確認もできず、アマチュア無線の力を借りるとか、情報基盤が必要。物資の流通や応援なども合わせ、グローバルな視点で県にはたらきかけるなど、お願いしたい。</p> <p>県内から来る死亡診断のためのお医者さんは、みな様に、交通の便が悪い、通信網が悪い、ガソリンの規制、そういうことを言っていた。</p> <p>また、湾口防波堤の議論も重要で、普代村は15mの防波堤で難を逃れている。</p>
	家田委員	<p>市で作るものなので、市域のくらしを考えるのは重要。</p> <p>ただ、陸前高田市、釜石市などは通勤圏。どこかのタイミングで、隣接の市町が集まって意見交換をしていただきたい。</p> <p>道路についても、大船渡市として、特にどこの優先順位が高いとかと優先順位をつけて国に提言していくのが非常に有効。</p>
4 協議(1)	災害復興局	(説明/資料6)
	斎藤(功)委員	<p>骨子としては大変すばらしい。復興期間10年もよい。</p> <p>仮設住宅の入居者、避難者、大変悩んでいるのは、いつどこにどうやって家を建てるか、2年経ったらどこへ行こう、お金はどうしよう、何事においても急がれる。スピード感をもって進められるように方向付けをすべき。</p> <p>商業関係ではさいとう製菓、漁業団体でも先を行っている団体はある。個人・法人が努力しており、そういう復興に対する情熱を持った人が走ることが非常に大切、それを支援するためには、地域から上がってくる提言を推進していけるようにすべき。早くどこかで復興の形が見えるように取り組む方向性を示していただきたい。</p>
	市長	<p>行政も来週から大きなくりの地区に入って皆さんの意見を吸い上げる。同時に、地区にどうしたいということも考えていただきたい。地域ごとに自発的に話していただきたいということもけしかけて行きたい。議員の方にも、地区の方に働きかけていただきたい。</p>
	中嶋委員	<p><6ページ ア></p> <p>漁協の組合長の立場で、漁船や養殖施設の共有化については、養殖施設は、整備は漁協で行うという考え方、漁業の進め方は、当面協業体制の中で進めていくという考え方で採用していくつもり。協業体制の充実強化は、大船渡市の水産振興という中でのご指導をいただかなければならない。</p> <p>共同経営化について、国の第1次補正の中では、個人ではできない状況。漁船を有するにも5～7名で法人化を進めるというのも無謀。例えば漁協で整備し、漁船を持ちたいという方々何名かに、漁船をリース対応する方法も考えられる。</p>

		<p>< 7ページ ></p> <p>高台に住宅を整備したいとなったとしても、農振地域に指定されているところもあるので、農振地域で整備が図られるような取り計らいを。</p> <p>どこにどうしたら漁協組合員の拠点となる施設をつくれればよいか、漁港の近くに魚付け保安林があるが、早急に解除できるようにしていただきたい。</p> <p>< 8ページ ></p> <p>防災教育について、学校教育、社会教育、家庭教育の中で、津波の恐ろしさが伝承されるような教育活動を充実させてほしい。明治、昭和の津波もここまで来なかったから、防潮堤があるから、という方が亡くなっている。とにかく長い地震がきたら高台にという教育を。昔は津波の歌もあった。学校教育、社会教育、家庭教育を充実させるということを骨子として入れていただきたい。</p>
	水野（雅）委員	<p>< 5ページの5行目 ></p> <p>水産業について、函館の漁協が久慈の漁協に225隻の磯船の支援をしているという記事があった。発信すれば、全国の漁協で余っている船があるのではないか。高田も含めたところで、発信するといいいのでは。</p>
	中嶋委員	<p>日本海は季節風が強い時化の多いところ、風がやむと海がすぐに凧になる。三陸の海は、波高が落ちない。日本海の10～20tクラス、1tクラスの漁船のコーミング（デッキから船べりまでの高さ）が低く、三陸の海の方では深くしているため、日本海からの提供は難しい。東京の方から、五葉マリーナに4隻の船代を提供。北海道の方から、越喜来漁協に義援金など支援がある。</p>
	多田委員	<p>< 7ページ キ ></p> <p>災害に強い鉄道の復旧整備について、JRでは、お客様の安全確保が第一、「災害を受けない」ということもある。</p> <p>線路の復旧は、まちづくりと一体になってやっていくが、大船渡線は、気仙沼市、陸前高田市も通るので、隣接市とも調整したい。</p> <p>「災害に強い、あるいは災害を受けない鉄道をまちづくりと一体となった復旧・整備をしたい」といったように、選択肢のあるように入れていただきたい。</p>
	澤田委員	<p>< 2ページ計画期間 ></p> <p>被害の甚大さ広域性を考えると、前期4年にし、それも1年と3年に分け、3年、3年としては、</p> <p>最初の1年は、ここで暮らしていけるという確信を持てるということが重要で、そういうメッセージを行政が出す。そういうスピード感としては、先行的に進めている人をトップランナーとしてみんなで支えるということよい。</p> <p>この一年を、地域を再建し絆を取り戻すための期間にするといいいのでは。</p> <p>< 4ページ ></p> <p>個別住宅再建しか書いていないが、新しい住宅地に入ったときに住民同士が助け合える環境をつくる、といったところを加えると、方針と施策の整合がとれる。</p> <p>< 6ページ アとウについて ></p> <p>被災した農地の復旧と遊休農地の有効利用はセットで考えた方がよく、既存の農</p>

		林水産資源の棚下ろしとして、再投資をするというのを入れ、グリーンな復興というのを入れるとよい。
	家田委員	<p>網羅的なよい骨子と感じる。</p> <p>< 2ページ計画期間 ></p> <p>前期は生活再建と産業再開のことが書いてあるが、「暫定的な安全対策に十分留意しつつ」ということを強調すべき。</p> <p>< 7ページ カ ></p> <p>道路の盛土でかなり壊れたところもある。市街地を寸断することにもなる。「十分にその効果を検討した上で」、などつけた方がいい。</p> <p>< 9ページ ></p> <p>「広域の交通インフラについては、選択と集中にて優先順位をつけて逐次整備を図っていくことを狙う」など、明快に言った方がいい。市の中の水産業者の方がどういうルートを通してどこに運ぶかという視点も必要。</p> <p>< 9ページ ></p> <p>広域的な公共施設(病院など)の配置の仕方についても、隣接市町とよく協力し、県と強調し、役割分担を行う必要があり、具体例を挙げながら書くのがよい。</p> <p>< 10、11ページイメージ図 ></p> <p>3月11日の高さに防潮堤の高さがあるが、基本は非現実的な完全防災ではなく、減災かと。防潮堤と浸水高の描き方は慎重に。</p>
	佐藤(隆)委員	<p>< 復興推進体制 ></p> <p>地区ごとに計画を作る上で、集落ごとのまちづくり協議会といった組織を作ることが大事。そこにアドバイザー派遣を行う、そういったことを入れていただきたい。</p> <p>< 産業復興 ></p> <p>地域のエネルギーを作り出していく(住田町のようなバイオマス)(森林資源)を使った産業を振興するなど、新たなエネルギー政策を取り入れ、新たな雇用と産業振興の場を起こすということを入れていただきたい。</p> <p>< どこかにいれておくべき ></p> <p>広域連合があるので、各市町で並行して広域の計画の整合性や、広域的に取り組むとより効果的な、観光や産業なども盛り込んでいただきたい。</p>
	伊藤委員	<p>< 骨子全体 ></p> <p>資料4の専門部会で抽出しているキーワードが骨子の中に見受けられない。もう少し、わかりやすく表記した方がよい。</p> <p>「今後も大船渡で暮らしていける自信・実感」というところにスピード感に関する言葉が結びつきそうなので、そこに考慮した計画策定を行っていく必要がある。</p>
	長坂委員	<p>< 骨子全体 ></p> <p>防災まちづくりが、産業、経済などと分かれて記載されているのが気になる。</p> <p>例えば、地域コミュニティの維持・回復といっている地域の単位は何か、ということが重要。地区内分権ができる、若者が地域コミュニティを経営していく、福祉を生み出していく、従来の産業と違うものを、若手やシニアの雇用も生み出していく、とい</p>

		<p>った包括的な地区自治をやっていくことが必要。もう少し広い、小学校区・中学校区くらいの単位で。</p> <p>新しいデジタル産業、ソフトウェア開発など、自立できる産業を生んでいく、起業していくといったことを、骨子の中に入れていただきたい。</p>
	熊谷委員	<p>< 2ページ計画期間 ></p> <p>県では復興期間8年間となっている。県との整合性をどうとるか。</p>
	災害復興局長	<p>現時点では、特に県との調整は考えていない。必要に応じて調整したい。</p>
	氏家委員	<p>< 2ページ計画期間 ></p> <p>計画の期間が10年ということであるが、10ページからのイメージでは、防潮堤の高さが3月11日の高さとなっているが、現在の湾内高さ4.2mで、今回の計画では高さ3倍もあり、これまでの防潮堤は当初計画10年、20年経ってもまだ終わっていないことから、大変厳しいと思う。</p>
	市長	<p>次の段階で、様々なプロジェクトが出てくるので、その段階で何年かかるか具体的に見えてくる。その時点で議論したい。</p>
	塩崎委員長	<p>< 4ページ ></p> <p>個人住宅再建支援、これが見えてこない、ここに住むのかが決まってくる。こういう風にすれば何百万円くるなど、これを数カ月で早く示さなければ、3年ではいけない。</p> <p>< 4ページ ></p> <p>介護サービスが、どこも壊滅していて、民間事業者による介護がガタガタ。これをどう建て直すかをしないと高齢者が大変。サービスを受けられるところへ移転してしまう。こういった視点が1つ抜けているかと。</p> <p>< 2ページ計画期間 ></p> <p>期間設定はこれでいいが、重点的なところは3年かけていられない。</p>
連絡その他	災害復興局	(説明 / 地区懇談会)

以上